



1月の園だより



令和6年1月4日
目黒区立鷹番保育園園長

あけましておめでとうございます

ご家族で穏やかなお正月を過ごされたことと思います。今年も保護者の方々と共に子どもたちの健やかな成長を見守り、笑顔いっぱいのラストイヤーにしていきたいと思います。残すところ3か月間ではありますがどうぞよろしくお願いいたします。

12月に行われた大きくなったね会では“友達と協力して劇遊びや合奏をし、表現する楽しさを経験する”“成長した姿を会や掲示を通し保護者に伝え、ともに喜び合う”というねらいを掲げて取り組みました。2歳児は表現の作品や部屋でのごっこ遊びの様子を写真で掲示し、5歳児は会を通して成長を伝え、ともに喜び合うことができました。劇の内容はもちろんのこと、舞台裏でも自分で出番のタイミングを計り衣装を脱ぎ着したり、友達に声をかけたりと自分たちで作り上げた劇となりました。翌日からの遊びの中でも人間の国とロボットの国を作って虹をつなごうと友達と協力したり、劇で歌った歌を鉄琴で奏でてみたり、劇で使用した道具を使って再現したりと余韻がいつまでも続いていました。気づいたら『楽しいね』の大合唱になっていることもありました。「だーいせーいこーう（大成功）」と声を合わせて達成感を味わい、さらに自信をつけた誇らしげな子どもたちです。

今月はお正月の遊びを経験するなど日本の伝統や季節を感じられる機会も多くなりますが、5歳児は2月のわくわくまつりに向けた活動も始まります。コロナ禍が明け、2歳児との交流や他園との交流、地域の親子との交流もできるようになって初（最初で最後）のわくわくまつりです。子どもたちと「だーいせーいこーう」と言えるように盛り上げていきたいと思います。

行事予定

新年こども会
ポニー教室（5歳児）

身体計測
避難訓練

懇談会の予定

2歳児クラス

目黒区立中央中学校の2年生3名が職場体験に来ます。



子どものつぶやき、ほのぼののエピソード

2歳児クラス

夕方お部屋で遊んでいると「ねぇ見てお空がピンク色になっている」と夕焼け空に気づいた子どもたち。「本当だ、ピンク色だね」「でもお日様見えないね」と声をかけると、一人の子がピンク色に染まった雲を見て「きっと雲さんが食べちゃったんだよ」と教えてくれました。いろいろ想像しながら見ているのですね。

5歳児クラス

園庭遊びの際、三角コーンを滑り台の一番上まで運び、拡声器の様に話始める子どもたち。「ピンポンパンポン」「みなさん、空を見てください。鱗雲がきれいですよ」と聞こえてきました。滑り台で遊んでいた子どもたちと一緒に空を見上げると奥の空に鱗雲が広がっていました。「きれいー」とみんなで言いながらほのぼのとした気持ちになりました。



クラスで盛り上がっていること



2歳児クラス

「トレーニングごっこ」

うさぎ組では、腕立て伏せやストレッチなどトレーニングをすることが盛り上がっています。「さつまのおいも」という絵本の中で、さつまいもが土の中でトレーニングをしているのを見て、子どもたちも一緒にトレーニングを始めたのがきっかけで日々楽しんでいきます。「できるよ、見てて」と、腕立て伏せの真似をしたり、ままごとコーナーから水入りのペットボトルを持って来ると、ダンベルのつもりで「いち、に、いち、に」と掛け声をかけながら真剣な表情で体を動かしています。さつまいもがスイミング帽子をかぶっている事に気づき、「帽子かぶりたい」と言う子がいたので、一緒に探すと布のバッグを見つけて頭にのせて泳いでいました。すると「メガネもしたい」と水中メガネの代わりになるものを探しに行く子がいました。「ない、めがねない」と探した後に「あった」とフェルトのベルトを持ってきました。繋げてメガネを作るのかなと思ったら、ボタンホールから向こうを覗いてメガネのつもりで泳いでいます。イメージを身近なもので再現しながら絵本の中のさつまいもになりきっています。トレーニングの後は「かぶを引っ張るおじいさんー」と、大きなかぶの歌を歌いながら綱引きが始まります。芋ほりの“引く”というイメージから大きなかぶの歌を思い出したようで、体を揺らしながらトレーニングの成果を発揮するかのよう、芋ほりごっこが始まります。好きなこと、興味を持ったことを全身で表現しながら友達と一緒に楽しんでいます。



5歳児クラス

「ありがとうの気持ちで」

きりん組が栽培したお米を12月中旬にみんなでおにぎりにして食べました。栽培・収穫・脱穀・粃摺りを経験し、長い時間をかけて作ったお米は185グラム、全員のおにぎりには足りない量でした。重い土を運び、暑い夏の水やりもがんばったけれど、おにぎり19個分には満たず、改めて米作りの大変さを感じたようでした。おにぎりにするために、胚芽米を少し足して米とぎをすると一粒も落とさないようにと大切に扱い、みんなで洗ったお米を炊飯器に入れ、炊けるタイミングで炊飯器の前で待ち構えました。炊飯器から炊きあがった音を聞くと大喜び、栄養士が蓋を開けると湯気が立ち上り「わぁ」「いいにおい」と声が漏れます。一人ずつお椀に盛ってもらい、ラップを使って好きな形に握りました。あたたかい出来立てのおにぎりをすぐに頬張る子もいれば、もったいないからと握りしめなかなか食べ始めない子もいます。ようやくそっと口に近づけ「ありがとうの気持ちで」と呟きながら大事そうに口に運ぶ姿を見て思わず笑顔がこぼれました。じっくり味わってから、友達と「甘いね」「お餅みたいにモチモチする」「いつものお米と味が違う」と感想を伝え合っていました。

米作りの感想を聞いてみると「田んぼの土を運ぶのが大変だった」「やり方を覚えたからまた作ってみたい」「みんなでお米が作れるなんてすごいと思った」と話してくれました。「ありがとうの気持ちで食べたのはなぜ」と尋ねると「もうこのお米は食べられないから、大事だと思ったんだ」とみんなで作った特別なお米に対する思いや、食へのありがたみも感じている様子でした。これからも食材を味わったり調理の手伝いをしながら、食への関心を高めていきたいと思えます。

